マツノミドリハバチ

７月と１０がつとにマツの葉を食害するイモムシ（幼虫）．最大長約22mm．体は緑色で，背中に暗い縦縞が４本ある．頭は黄色で，黒い大きな斑紋がある．
北海道ではストローブマツでの発生が多いといわれている．

【学名】 *Nesodiprion japonica*
【分類】 ハチ目（Hymenoptera），ハバチ亜目（Symphyta），マツハバチ科（Diprionidae）
【分布】 北海道，本州，四国，九州；台湾，北米．

【生態】
主にストローブマツなどマツ属各種に寄生する．他にヒマラヤシーダやカラマツにもわずかながらつく．
幼虫は７月と１０月に発生する． ７月に発生した幼虫は８月に樹上で繭になる． ９月頃繭から成虫が羽化する． １０月に再び幼虫が発生し，晩秋に落葉中や樹皮の隙間に繭を作って越冬する．春に成虫が羽化，産卵する．

【被害と防除】
ストローブマツで多発することがあり，丸坊主にされると木が枯れることがあるといわれているが，多発記録はほとんどない．
過去にカラマツ林で被害記録があるが，カラマツキハラハバチの誤認とされている．
農薬による駆除が必要と判断される場合，マツ類のハバチ用の農薬としてMEP乳剤がある．農薬は取扱説明書に従って使用し，散布にあたっては通行人や近くの住民らに十分配慮すること．

【文献】
1985．農林水産省林業試験場北海道支場保護部．北海道樹木病害虫獣図鑑．223 pp．北方林業会，札幌． （生態，被害，カラー写真）．

北海道立林業試験場・緑化樹センター

マツノミドリハバチ habahoka/matunomi/kaisetu.htm
「文章」 原秀穂，北海道立林業試験場，2001/8/24.